

献 辞

岩本武和教授は、2021年3月31日をもって、本学を早期退職され、同年4月1日より西南学院大学経済学部へ、転出されることになりました。

岩本教授は、1982年に早稲田大学政治経済学部経済学科を卒業後、京都大学大学院経済学研究科に進学され、1985年に修士課程を修了、1988年博士後期課程を単位取得退学されました。そして、1999年に学位論文『ケインズと世界経済』によって、京都大学から博士（経済学）の学位が授与されました。

博士後期課程を終了後、岩本教授は、東京外国語大学専任講師、静岡大学人文学部助教授を経て、1993年京都大学経済学部助教授に着任、1999年大学院経済学研究科教授に昇進されました。1993年4月のご着任後、2021年3月のご退職まで、28年間の長きにわたり京都大学での教育・研究・学内運営に多大の貢献をされました。

第一に、教育においては、学部・大学院において、国際金融論、世界経済論、国際経済政策などを担当し、300人以上のゼミ生を輩出してきました。ISFJ日本政策学生会議、日韓英語インゼミ、阪大・神大・慶應・京大の合同ゼミなどを通じて、ゼミ生が執筆した論文は、毎年のように、優秀卒論賞や楠若葉賞などを多く受賞してきました。それは、何代かにわたって有能な院生のTAが、学部レベルを超える理論モデルや実証分析を手取るように教えてきたからでもありました。卒業生の10%以上が、日銀や財務省、経産省など霞ヶ関公務員となっているのも特徴的なことです。

第二に、研究において、学位論文『ケインズと世界経済』（岩波書店、1999年）刊行後は、現代の国際資本移動の理論的・実証的な研究を精力的に行われ、この資本フローの視点からアジア通貨危機、リーマンショック後のグローバルな金融危機、欧州債務危機などを対象に、数多くの学術論文を執筆されてきました。学会においては、「日本国際経済学会」の会長（2012年～14年）を勤められただけでなく、財務省財務総合政策研究所（財総研）「国際的な資金フローに関する研究会」委員（2011年～12年）、内閣府経済社会総合研究所「『世界経済の構造転換が東アジア地域に与える影響』に関する研究会」委員（2012～13年）のほか、アジア太平洋研究所（APIR）の上席研究員（2016年～現在）など、産官学連携研究にも力を注いでこられました。その成果の一つが、貝塚啓明・財務省財務総合政策研究所『国際的マネーフローの研究』（中央経済社、2012年）であります。また、ロンドンの東洋アフリカ研究学院（SOAS）に2010年10月から2011年3月まで、客員研究員として在外研究をされ、2016年10月から2017年4月までJICAの依頼を受けて、台湾の国立政治大学の大学院に「国際経済と日本経済」というテーマで講義を行われました。

第三に、学内運営においても、岩本教授は、2008年から2010年まで京都大学教育研究評議員、大学院経済学研究科副研究科長、また2014年から2016年まで京都大学教育研究評議員、大学院経済学研究科長、さらに2018年4月から2020年3月まで京都大学教育研究評議員、公共政策大学院連携研究部長・教育部長を勤められました。その他、2012年から2014年まで経済学研究科附属プロジェクトセンター長、2020年4月から現在まで経済学研究科附属東アジア経済研究センター長の職責を果たされております。

京都大学における 28 年間に渡る岩本教授の最もユニークなご経歴は、京都大学交響楽団の音楽部長を 2009 年から 2018 年まで 9 年間勤められてきたことでしょう。2017 年には京大オケ 100 周年記念事業として、記念コンサートを東京のサントリーホールと京都コンサートホールで開催、100 年史上下 2 巻本の刊行、ウェスティン都ホテルで山極総長（当時）、尾池元総長、長尾元総長他をお招きした 100 周年記念パーティーを挙行政いたしました。岩本教授は、これらの行事を開催するために、京大基金に「京大オケ 100 周年記念事業」を設置し、いわゆる京都企業をはじめ、文化活動に理解のある企業にご寄付を頂戴するために奔走されました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功績への敬意と学恩に対する感謝の気持ちを込めて、本記念号を編集いたしました。先生のご指導を受けた方々から寄せられた論文を編んで、本号を教授に捧げることができますことは、私どものこの上ない喜びであります。

岩本先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍なされますことを心からお祈りいたします。

2021 年 10 月

京都大学大学院経済学研究科長 依田 高典